

満文『玉堂字彙』における語尾がb, k, ngで終わる単純形式のオノマトペ  
Simple Form of the Onomatopoeia Which the Ending of A Word is b, k, ng in the  
Manju gisun “Yutangziyi”

王 則堯  
WANG Zeyao

摘要

本論以《外国語学研究第19号》所投稿の論文为基础，进行的拓展分析。在19号所投论文中，以恩师寺村政男所著的満洲語注音《満洲語注音・注釈『玉堂字彙』—研究と翻刻・繙訳》为原始资料，网罗其中的満語拟声词拟态词，总结了它的形态并进行了分类。从形态上将満洲語拟声词拟态词分为单纯形式与双语形式。

本稿进一步以单纯形式的拟声词拟态词为中心，并以词尾为b, k, ng的词语进行意义上的具体分类。在分类的同时再尝试做満和对比分析。

キーワード：満洲語 玉堂字彙 オノマトペ 語尾 単純形式

0. はじめに

筆者は、寺村政男「満洲語注音・注釈『玉堂字彙』（子集～亥集）—研究と翻刻・繙訳—」の12集から抜き出した満洲語のオノマトペを、単純形式と双语形式に分けてみた。単純形式のオノマトペは、主に語尾が母音で終わるもの（～V）と、語尾が子音で終わるもの（～C）をさす。例えば、「cu」、「hoo」が母音「u」、「o」で終わるオノマトペであり、「cib」、「flk」が子音「b」、「k」で終わるオノマトペである。一方、双语形式のオノマトペは、二つの語がくみあわさったもの乃至一つの語を繰り返したものをさす。例えば、「per par」、「tang tang」などである。

本稿では、満文『玉堂字彙』から抜き出した語尾がb, k, ngで終わる単純形式のオノマトペについて、満洲語のオノマトペの日本語訳（寺村訳）をもとにして、河内『満洲語辞典』を参考しながら、擬音と擬態という視点から再分類する。そして、唯一の先行研究曉春（2015）「満語擬声詞刍議」の分析を参考とし、その相違点をまとめる<sup>1)</sup>。

1. 語尾がbで終わる単純形式のオノマトペ

この節では、満洲語の子音「b」で終わるオノマトペ「～b」について、満和辞書などに沿って、基礎的な分析を行う。満文『玉堂字彙』の12集から抜き出した「～b」の単純形式のオノマトペは、「cib」（ひっそり）、「gib」（がんと）、「keb」（陸まじい）、「kob」（ぴたり）、「lab」（がぶがぶ）、「tob」（正しい）が挙げられる。

1.1 満洲語オノマトペ「gib」の満和比較

表 1-1

| 漢字 | 所在        | 満洲語の解釈    | 寺村訳          |
|----|-----------|-----------|--------------|
| 聒  | 未・耳部201-9 | gib sembi | グワーンと耳が振動する様 |

河内（2014）『満洲語辞典』

見出し語: gib seme<sup>2)</sup>

象徴詞。がんと。つんと。大音のためにしばらく耳が聞こえなくなった。耳震聾。

表1-1と『満洲語辞典』を照らし合わせたところ、共通するのは、寺村訳の「グワーンと」と『満洲語辞典』の「がんと」がほぼ一致するのが分かる。そして、「グワーンと耳が振動する様」から見ると、「gib」は擬態語だと思われる。次に、満和比較の視点から、「gib」は擬音語か擬態語に近いのを検討していきたい。『日本国語大辞典』では、「がん」の説明は以下のように書かれている。

- ①鐘、鉦などの音を表す語。また、物を強く打った音を表す語。
- ②転じて、手きびしく打撃を与えるさまを表す語。

つまり、「がん」は、擬音語でもあり、擬音語をもとにして派生した擬態語でもある。しかし、擬態語の場合は、「gib」の使用範囲とのずれが現れる。また、「gib」は、被修飾の対象が耳のみである。

### 1.2 満洲語オノマトベ「keb」の満和比較

表1-2

| 漢字 | 所在       | 満洲語の解釈    | 寺村訳  |
|----|----------|-----------|------|
| 膏  | 子・人部85-2 | keb sembi | 睦まじい |

河内 (2014)『満洲語辞典』

見出し語: keb seme<sup>3)</sup>

- ①象徴詞。極めて親密な貌。親近様。
- ②象徴詞。ぐったりと。非常に疲労した貌。乏極。
- ③象徴詞。ぱたりと。不意に物の倒れ落ちる貌。物忽落下。

つまり、『玉堂字彙』に出てくる「keb」の意味は、親密なさま以外に、疲れる様子と倒れ落ちるさまも含んでいる。そして、この三つの意味は、互いのむすびつきが見えにくい。また、親密さを表す場合、寺村訳は「睦まじい」であり、『満洲語辞典』は「極めて親密な貌」である。換言すれば、満洲語では「keb」が擬態語として定着され、日本語のオノマトベに直訳する傾向がみられない。

### 1.3 満文『玉堂字彙』における単純形式のオノマトベ「～b」の分類

満文『玉堂字彙』から抜き出した「～b」のオノマトベの延べ語数は、13語であり、異なり語数は、6語である。擬音語と擬態語に分けると、以下ようになる。

表1-3 満文『玉堂字彙』における単純形式のオノマトベ「～b」の分類

|         |               |
|---------|---------------|
| 擬音語     | gib グワーンと     |
| 擬態語     | cib ひっそりと     |
|         | kob びたりと      |
|         | lab がつがつと     |
|         | keb 睦まじい      |
| 類似オノマトベ | tob 正しい       |
|         | cib ひっそりと／さっと |

この節で挙げたオノマトベは、同じく「～b」の単純形式のオノマトベであるが、意味上においては、はっきりとした共通点がみられない。しかし、暁春（2015）は、満洲語の子音「b」を語尾音としたオノマトベについて、以下のように書いている<sup>4)</sup>。

表示力度较大, 但不太响亮的声音。(筆者訳: 力強いが、あまり高らかではない音を表す)。

これは、暁春がもっぱら擬音語を対象として分析を行って導いた結論だと考えられる。そして、『玉堂字彙』に出てくる「～b」の単語形式のオノマトベは、殆ど擬態語である。「gib」（がんと）の方は、たしかに擬音語の意味も含んでいるが、暁春が出した結論は、寺村訳の「耳がグワーンと振動するさま。」、『満洲語辞典』による「大音のためにしばらく耳が聞こえなくなった。」との相違が現れる。

## 2. 語尾がkで終わる単純形式のオノマトベ

満文『玉堂字彙』の12集から抜き出した「～k」の単純形式のオノマトベは、「cik」（ふと）、「ek」（ぞつと）、「fak」（がっちり）、「fik」（もくもく）、「hak」（痰を吐く音）、「hiyūk」（称賛する）、「kek」（すつと）、「kiyak」（ばきつ）、「pak」（ばちん）、「patak」（ぼとん）、「pocok」（どぼん）の11語が挙げられる。『満洲語辞典』により、「fak」「fik」「hak」「kiyak」「pak」「patak」「pocok」が象徴詞（オノマトベ）として取り扱っている。そのうち、擬音語は、「hak」「kiyak」「patak」「pocok」であり、擬態語は、「fak」「fik」である。そして、擬音語と擬態語を兼ねるのは「pak」である。また、「hiyūk」は、『満洲語辞典』には収録されていない。

### 2.1 多義オノマトベ「fak」

表2-1

| 漢字 | 所在       | 満洲語の解釈    | 寺村訳                    |
|----|----------|-----------|------------------------|
| 偶  | 子・人部61-3 | fak sembi | 体ががっちりしている、疲労でぐったりとした様 |

河内（2014）『満洲語辞典』

見出し語: fak seme<sup>5)</sup>

- ①象徴詞。がっちり。背は低いが頑丈な人を形容する言葉。敦實。
- ②象徴詞。どさりと。疲れて坐る貌。乏坐様。
- ③象徴詞。ぱったりと。(突然) 人事不省に陥った貌。忽然迷倒。

「fak」というオノマトベは、満文『玉堂字彙』から抜き出した「～k」のうちに、唯一の多義語である。詳しくは、2.2で分析を加えることにする。

### 2.2 満文『玉堂字彙』における単純形式のオノマトベ「～k」の分類

満文『玉堂字彙』から抜き出した「～k」のオノマトベの延べ語数は、19語であり、異なり語数は、11語である。以下は、その分類である。

表2-2 満文『玉堂字彙』における単純形式のオノマトペ「～k」の分類

|         |       |                 |
|---------|-------|-----------------|
| 擬音語     | hak   | 痰を吐く音。べっ、かあっ。   |
|         | kiyak | 乾いた木の折れる音。ぼきんと  |
|         | pak   | 爆竹などが炸裂する音。ぼん。  |
|         | patak | 石が落ちる音。ごどん。     |
|         | pocok | 水に物が落ちる音。どぼん。   |
| 擬態語     | fak   | ぐったり            |
|         | fik   | むくむくと           |
|         | pak   | かちかち            |
|         | cik   | ふと              |
| 類似オノマトペ | ek    | 人を嫌って合うのを恐れる様。  |
|         | kek   | 気に入る。思い通りになる。   |
| 多義オノマトペ | fak   | がっちり／どさりと／ぱったりと |
| 辞書収録なし  | hiyuk | 称賛する            |

曉春（2015）は、満洲語の子音「k」で終わるオノマトペについて、以下のように書かれている<sup>6)</sup>。

表示在短時間內發生的聲音。(筆者訳：短時間のうちに発する音を表す)。

この節で挙げた『玉堂字彙』における単純形式のオノマトペ「～k」（擬音語のみ）の音の分布は、表2-2をもとにして、以下のようにまとめられる。

- hak (痰を吐く音)
- kiyak (乾いた木の折れる音)
- pak (小さい爆竹の音／硬いものを地に投げた音)
- patak (小さくて硬い物が地に落ちた音)
- pocok (物が水中に落ちる音)

時間的に言えば、皆短い間に発した音である。そして、物の発する音が澄んでいる或いは冴えているという特徴も見られる。これは、清音「k」の影響に起因するかもしれない。しかし、曉春（2015）は、もっぱら擬音語を対象として分析を行ったため、「～k」の擬態語への関心が欠けている。第2節で挙げた11語の中には、「fak」「fik」は擬態語とし、「pak」は擬音語と擬態語を兼ねるものとして扱われている。このうち、「fak」が多義語である。河内（2014）『満洲語辞典』による説明をまとめていうと、以下のようになる。

- fak (①背は低いが頑丈な人を形容する言葉 ②疲れて坐る貌 ③(突然)人事不省に陥った貌)
- fik (草木の密生した貌)
- pak (飯や肉がひどく乾いて硬くなり、食えないさま)

以上述べたように、満文『玉堂字彙』における「～k」の単純形式のオノマトペ（擬態語のみ）の特徴を、その日本語訳から導き出すのは難しい。しかし、これらのオノマトペの意味的な背景を吟味すれば、おそらく、「収縮する」または「エネルギーの消耗」というのが共通しているところだと考えられる。「fak」の方は、物事が縮んだり、エネルギーがなくなったりするという特徴もっている。「fik」の方は、ばらばらになっていない状態を表す傾向がある。「pak」の方は、物が固まっているということを意味しているのではないかと考えられる。

### 3. 語尾がngで終わる単純形式のオノマトペ

#### 3.1 類似オノマトペ「keng」の満和比較

表 3-1

| 漢字 | 所在       | 満洲語の解釈     | 寺村訳     |
|----|----------|------------|---------|
| 嗆  | 丑・口部59-9 | keng       | 咳の音     |
| 愜  | 卯・心部60-8 | keng sembi | 思い通りになる |
| 慇  | 卯・心部60-9 | keng sembi | 思い通りになる |

河内 (2014)『満洲語辞典』

見出し語: keng<sup>7)</sup>

象徴詞。こんこん。咳をする聲。乾嗽聲。

見出し語: keng seme, -sembi<sup>8)</sup>

久別忽然遇憫心之意。

表 3-1 で示したように、「keng」は、咳の音を表すほか、「思い通りになる」という意味でもある。日本語オノマトペの「こんこん」には、それに相当する意味があるかを検証するため、『日本国語大辞典』にでてくる「こんこん」を調べた。仮名表記の「こんこん」には、咳の音、キツネの鳴き声、堅いものが打ち当たってたてる音、雨や雪、あられなどの降るさまなどの意味がある。いずれも、「思い通りになる」という意味に当てはまらない。

一方、漢字表記の「こんこん」には「昏昏・惛惛」、「滾滾・渾渾・混混」、「猷猷」、「懇懇・惓惓」という言葉がある。そして、河内 (2014)『満洲語辞典』での見出し語「keng seme, -sembi」の意味は、「久別忽然遇憫心之意。」(筆者訳: 久しぶりに出会って、心が慰む。)であるため、「懇懇・惓惓」という言葉には一致しないが、意味が近いのではないかと思われる。その意味は、『日本国語大辞典』では、以下のように書かれている。

形動タリ。心をこめたさま。また、親切に繰り返し言うさま<sup>9)</sup>。

以上述べたように、仮名表記の「こんこん」は、「keng」にある「思い通りになる」と言う意味とは異なるが、漢字表記の「懇懇・惓惓」に類似するのが分かった。

#### 3.2 満文『玉堂字彙』における単純形式のオノマトペ「～ng」の分類

満文『玉堂字彙』から抜き出した「～ng」のオノマトペの延べ語数は、106語であり、異なり語数は、24語である。以下は、その分類である。

表3-2 満文『玉堂字彙』における単純形式のオノマトベ「～ng」の分類

|         |          |                   |
|---------|----------|-------------------|
| 擬音語     | ang      | 戦い、喧嘩の時の音。        |
|         | bing     | 腹がグーッと言う。         |
|         | giyang   | 犬がきゃんきゃん吠える音。     |
|         | hung     | 火の燃えおこる音。ぱっと。     |
|         | keng     | 咳の音。こんこん。         |
|         | kung     | 大きなものが地に落ちる音。どかん。 |
|         | kutung   | どたん、ずしん。          |
|         | kūwang   | コーンという響き。         |
|         | tang     | 太鼓がトンと鳴る音。        |
|         | ung      | 鐘の響く音。ごーん         |
|         | yang     | 蚊などが飛ぶブンブンという音。   |
| 擬態語     | cing     | 火のつく様。ぱっと。        |
|         | cung     | しゃにむに歩く様。         |
|         | darang   | 体が長い様。だらりと。       |
|         | gejing   | くどくど              |
|         | gujung   | こつこつと             |
|         | hiyang   | こらっと              |
|         | kang     | がやがやとしゃべる様        |
|         | kakūng   | がたんと              |
|         | katang   | 物の硬い様。かちんかちん。     |
|         | ping     | 腹が張る様。ぴんと。        |
|         | šuwarang | するりと              |
| teng    | しっかりと    |                   |
| 類似オノマトベ | hing     | 一心に、心を込めて。        |
|         | keng     | 思い通りになる。          |
| 辞書収録なし  | bing     | 腹がグーッと言う。         |

曉春（2015）による「ng」を語尾音とした擬声語の特徴は、以下のように書いている。

表示较长而厚重的声音或强烈碰撞，穿透力较强的声音（筆者訳：長い且つ重々しい音、または激しく衝突したり、強く貫通したりする音を表す。）

確かに、「kutung」（どたん）、「kung」（どかん）、「ung」（ゴーン）のような擬音語は、重々しい音を表すのであるが、「keng」（咳の音）、「yang」（蚊の飛ぶ音）などは、曉春のまとめた特徴とのずれがみられる。また、「ng」で終わるオノマトベには、擬音語だけではなく、「gujung」（こつこつと）、「darang」（だらりと）、「gejing」（くどくど）などの擬態語もある。

#### 4. おわりに

周知の通り、中国語には、擬態という概念が存在していない。しかし、日本語の擬態語に相当するものがないというわけではない。先行研究曉春（2015）では、満洲語のオノマトベをもつばら擬音または擬声という視点から取り扱ったので、擬態語への関心が欠けている。また、曉春は、子音を語尾音としたオノマトベが持つ特徴を一文のみでまとめたので、満文『玉堂字彙』にでてくるオノマトベにすべてあてはまるとは言

えない。したがって、筆者は、日本語オノマトベの持つ特徴と同様に、擬音語、擬態語に分類してみた。さらに、形態から見れば(「seme」がついている)、満洲語オノマトベと一致するが、意味としては、日本語には直訳しにくいものを、類似オノマトベに下位分類した。

本稿では、語尾が子音b, k, ngで終わる単純形式のオノマトベを手掛かりに、擬音と擬態の視点から分類してみた。今後は、双語形式のオノマトベを対象として分類し、満和比較の視点から検討していきたいと思う。

#### 原典資料：

- ・寺村政男『満洲語注音・注釈『玉堂字彙』子集—研究と翻刻・繙訳—』  
語学教育フォーラム-27-号 大東文化大学語学教育研究所 2013.01.18
- ・寺村政男『満洲語注音・注釈『玉堂字彙』丑集—研究と翻刻・繙訳—』  
語学教育フォーラム-29-号 大東文化大学語学教育研究所 2014.02.28
- ・寺村政男『満洲語注音・注釈『玉堂字彙』寅集—研究と翻刻・繙訳—』  
「水門(みなと)会」特刊叢書-第1号- 「水門(みなと)会—言葉と歴史」編集部 2014.10.01
- ・寺村政男『満洲語注音・注釈『玉堂字彙』卯集—研究と翻刻・繙訳—』  
「水門(みなと)会」特刊叢書-第2号- 「水門(みなと)会—言葉と歴史」編集部 2015.05.30
- ・寺村政男『満洲語注音・注釈『玉堂字彙』辰集—研究と翻刻・繙訳—』  
「水門(みなと)会」特刊叢書-第3号- 「水門(みなと)会—言葉と歴史」編集部 2015.08.30
- ・寺村政男『満洲語注音・注釈『玉堂字彙』巳集—研究と翻刻・繙訳—』  
「水門(みなと)会」特刊叢書-第4号- 「水門(みなと)会—言葉と歴史」編集部 2015.12.25
- ・寺村政男『満洲語注音・注釈『玉堂字彙』午集—研究と翻刻・繙訳—』  
「水門(みなと)会」特刊叢書-第5号- 「水門(みなと)会—言葉と歴史」編集部 2016.04.20
- ・寺村政男『満洲語注音・注釈『玉堂字彙』未集—研究と翻刻・繙訳—』  
「水門(みなと)会」特刊叢書-第6号- 「水門(みなと)会—言葉と歴史」編集部 2016.07.20
- ・寺村政男『満洲語注音・注釈『玉堂字彙』申集—研究と翻刻・繙訳—』  
「水門(みなと)会」特刊叢書-第7号- 「水門(みなと)会—言葉と歴史」編集部 2016.10.30
- ・寺村政男『満洲語注音・注釈『玉堂字彙』酉集—研究と翻刻・繙訳—』  
「水門(みなと)会」特刊叢書-第8号- 「水門(みなと)会—言葉と歴史」編集部 2017.03.31
- ・寺村政男『満洲語注音・注釈『玉堂字彙』戌集—研究と翻刻・繙訳—』  
「水門(みなと)会」特刊叢書-第9号- 「水門(みなと)会—言葉と歴史」編集部 2017.07.20
- ・寺村政男『満洲語注音・注釈『玉堂字彙』亥集—研究と翻刻・繙訳—附・部首別索引』  
「水門(みなと)会」特刊叢書-第10号- 「水門(みなと)会—言葉と歴史」編集部 2017.10.15

#### 注

- 1) 曉春(2015)「満語擬声詞論」『満語研究MANCHU STUDIES』2015年第1号
- 2) 河内良弘(2014)『満洲語辞典』松香堂書店 2014.06.30 p452
- 3) 河内良弘(2014)『満洲語辞典』松香堂書店 2014.06.30 p712
- 4) 曉春(2015)「満語擬声詞論」『満語研究MANCHU STUDIES』2015年第1号 p20
- 5) 河内良弘(2014)『満洲語辞典』松香堂書店 2014.06.30 p353
- 6) 曉春(2015)「満語擬声詞論」『満語研究MANCHU STUDIES』2015年第1号 p20
- 7) 河内良弘(2014)『満洲語辞典』松香堂書店 2014.06.30 p717
- 8) 河内良弘(2014)『満洲語辞典』松香堂書店 2014.06.30 p717
- 9) 本稿で用いた『日本国語大辞典』は、Japan Knowledgeバージョンである。<https://japanknowledge.com/lib/search/basic/>